



## <ベトナム・リサーチ・特別レポート>

情報提供用資料

2020年8月11日

### ベトナムのゴム産業

現在、ベトナムは天然ゴムの生産量で世界3位、輸出シェアで世界4位にランクされています。また、後述のようにベトナムは世界最高水準のゴムの生産性を誇ります(単位面積あたりの収穫量で)。2019年、ベトナムの天然ゴム生産量は世界全体の約8.7%、ゴム木の総栽培面積は約6.3%を占めています(ベトナムゴム協会のデータ)。右のラベルは、ベトナムゴム協会にゴム製品の品質が認定されると使用される「ベトナムゴム」の認証マークです。



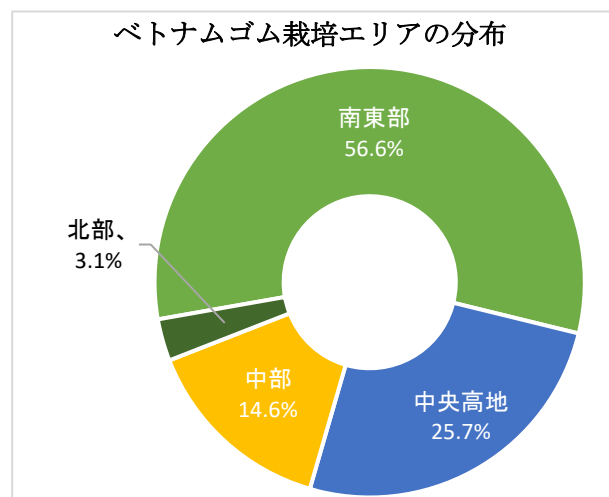
ベトナムゴムラベル

ベトナムは天然ゴム産業の発展に適した気候と土壌など自然条件に恵まれています。ゴムの木は1897年からベトナムで栽培されており、ベトナム南東部のドンナイ省、ビンズオン省、ビンフック省、タイニン省など大規模な濃縮ゴムの栽培地域を擁しさらに拡大しています。長い伝統を持つベトナムのゴム生産・加工産業ですが、多くの雇用を創出し、ベトナム経済に多大な貢献をしている重要な農林業の一つです。

ベトナム政府は、1975年から現在にいたるまで経済発展におけるゴムの木の重要性を認識し、ゴム生産を奨励する多くの政策を遂行していますが、特に輸出市場での根強い需要に対応することを目指しています。

ゴムの木の樹液収穫は樹齢7年頃から可能になり25年ほど継続することができますので、ライフサイクルは約32年となります。

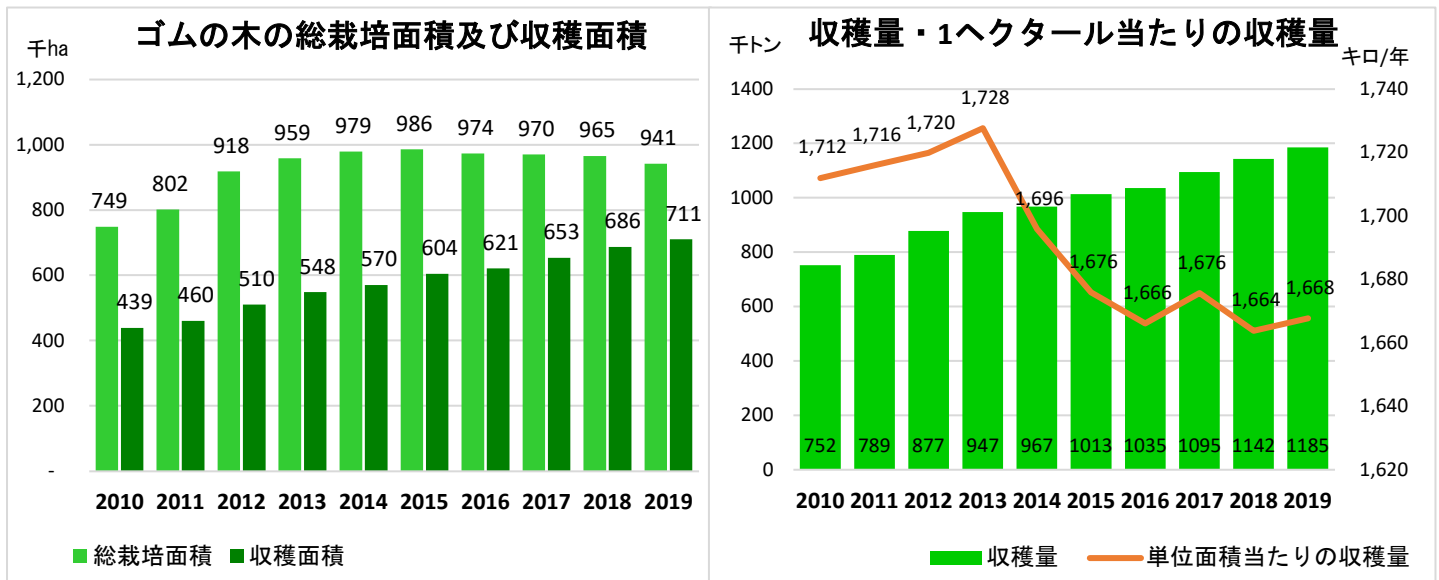
ベトナムゴム栽培エリアの分布



当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



政府の産業開発促進政策により、ゴム産業に対して国営企業から一般家庭にいたるまで様々なセクターが積極的に参加し投資しています。その結果、ここ 20 年間にゴム栽培面積は大幅に拡大し、総面積は 74,900 ha から 94,100 ha に増加しました(2010 年から 2019 年の期間)。収穫面積も年々増加し、2019 年には 2010 年比で 61%増の 71,000 ha に達し、総栽培面積の 75.6%を占めています。ゴムの生産量もここ数十年に年平均 9%ほど増大し、2019 年の生産量は前年比 3.8%の 118.5 万トンに達しました。単位面積あたりの収穫量は新品種のゴム木の導入や栽培技術の進歩により、年間 1.6～1.7トンの高水準を維持しています。



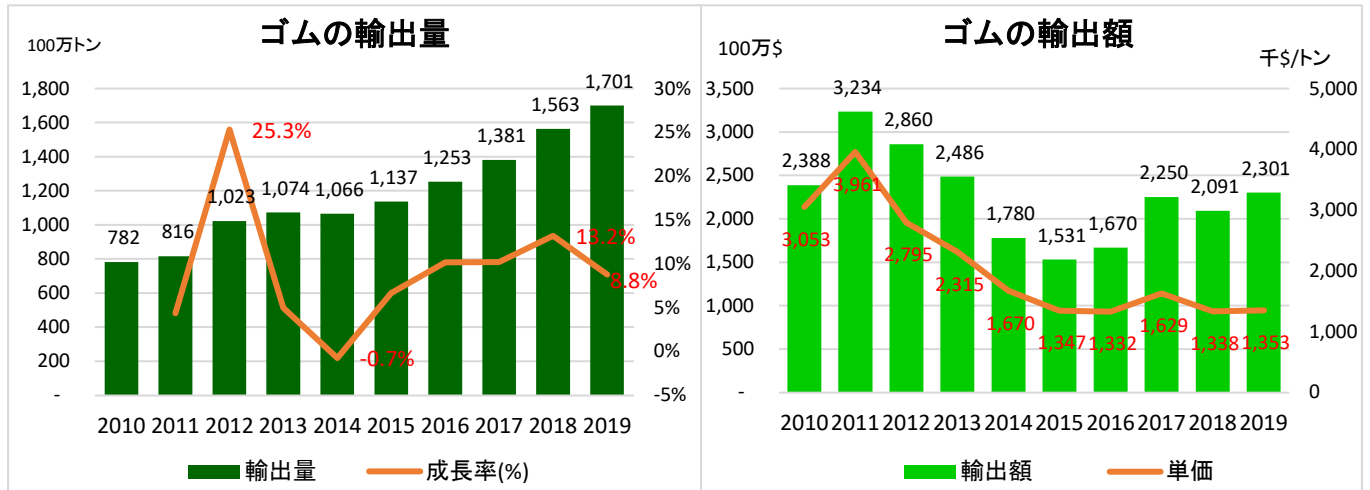
出所：いずれもベトナム統計総局

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



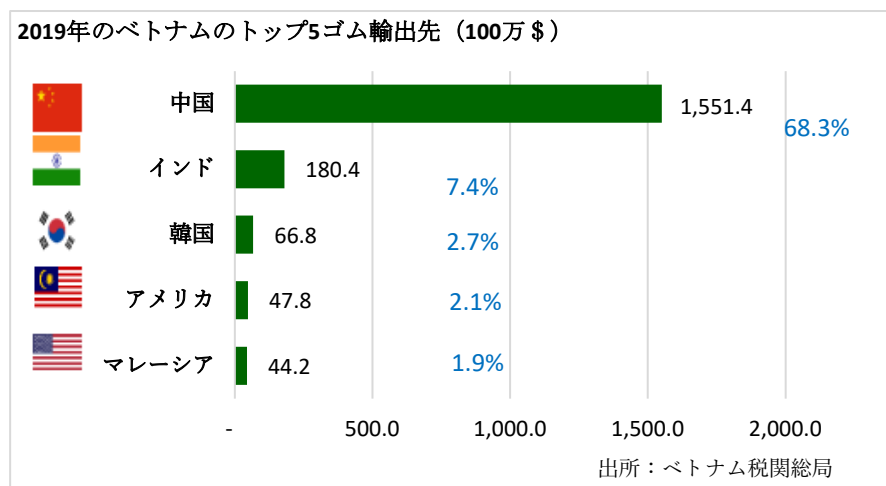
天然ゴム産業は、長年にわたり開発を強化すべき経済セクターとされ、今やゴムはベトナムの 10 大輸出品目の一つになっています。

ベトナムゴム産業の主要輸出品目は、①天然ゴム原料、②ゴム製品、③ゴム木およびその家具、という 3 つのグループに集中しています。これら 3 つの製品グループの輸出額は約 66 億ドルで総輸出額の 2.5%に相当しました(2018 年)。また、ゴム商品の内需は輸出を下回っていますが、最近は拡大傾向にあります。



出所：いずれもベトナム税関総局

現在、ベトナムのゴムは約 31 か国に輸出されていて、その中で中国は最も重要な輸出先となっています。同市場への輸出額は 15.5 億ドルで輸出総額の 67.8%を占めています。その他の主要輸出先はインド(7.4%)、韓国(2.7%)、アメリカ(2.1%)、マレーシア(1.9%)です。



当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



しかし、ベトナムゴム産業には困難や課題があるのも事実です。その一つはここ5年間に世界のゴム価格が大きく下落していることです。また、最大の輸出先である中国市場に過度に依存し、多様化・多極化が進んでいないことが指摘されています。さらに、ベトナムのゴム商品は主に原材料ですが、それは加工技術が地域の他国と比較して時代遅れであることが背景とされています。

今後の展望に関して専門家は、世界ベースの需要は今後も堅調に増えると指摘しています。世界ではゴムの約71%がタイヤ産業に使用されていることから、ベトナムのゴム製品は主に天然ゴムやタイヤでゴム製品全体の80~90%を占めています。また、最近の米中貿易摩擦の影響で、タイヤ生産に関する多くのFDIプロジェクトがベトナムに追加投資し、中国からも投資額約2億~3億ドル相当のプロジェクトが進行しています。例えば、ACTRタイヤ工場やRadian Jinyu(Vietnam)タイヤ工場やAdvance Vietnamタイヤ工場の総生産量は年間約560万本で、ラジアル・タイヤの生産伸び率はさらに約12%上昇する見込みです。これらのプロジェクトはベトナムのタイヤ市場やゴム産業の発展にも貢献し、ベトナムのタイヤ市場の年平均伸び率は7-8%に達し(2018年~2020年の期間)、これは世界の平均成長率の約2倍と推定されています。

また、CPTPPやEVFTA等の自由貿易協定が最近発効したことで、特惠関税の恩恵を受け加盟国へのゴム輸出がさらに促進される見込みです。このように優位性が高いベトナムのゴム産業ですが、今後も成長を継続し、数多くの高付加価値ゴム製品を生産・輸出することが期待されています。



【写真提供:JVRC】

<http://www.capital-am.co.jp>

以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。